



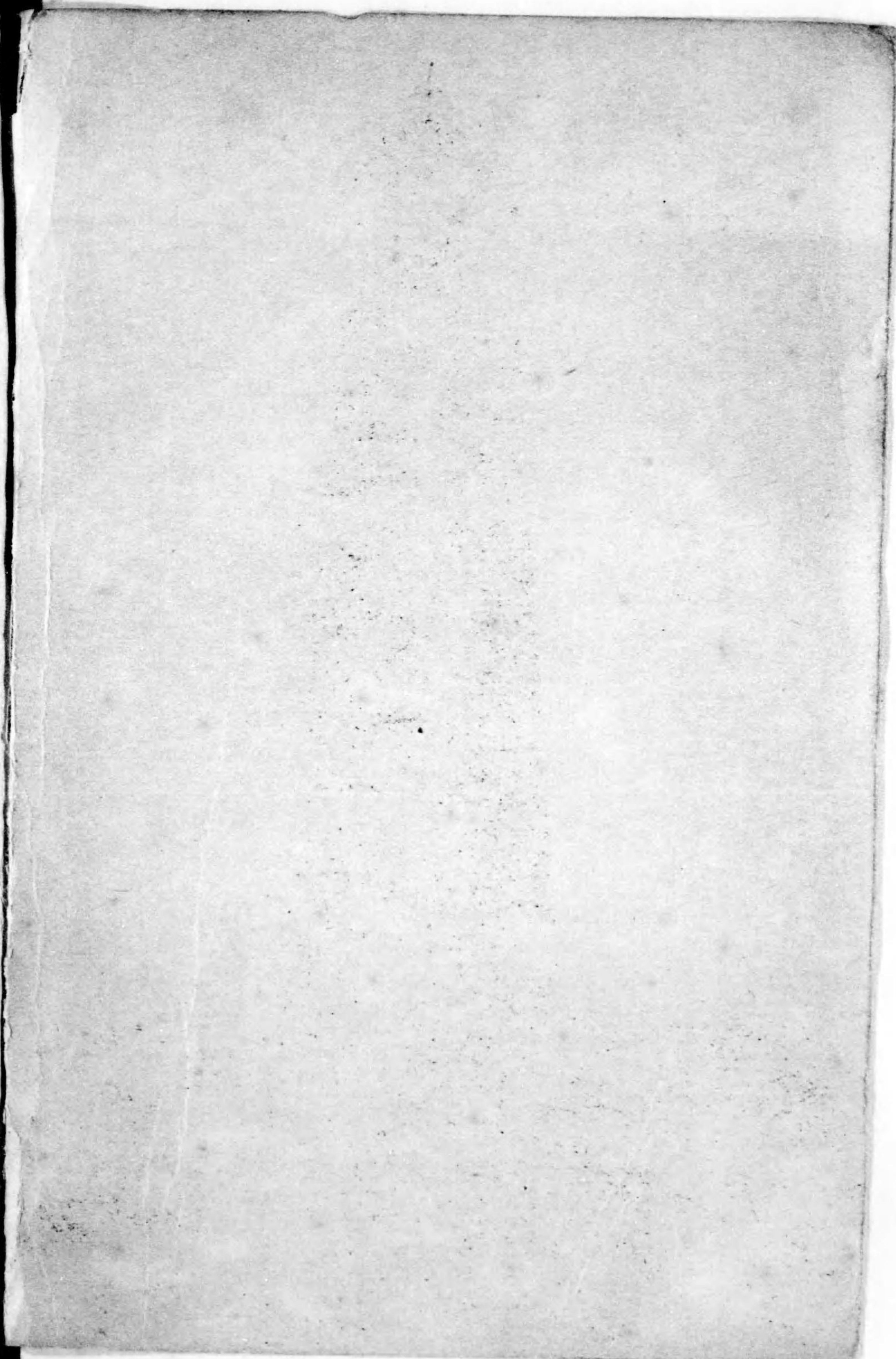
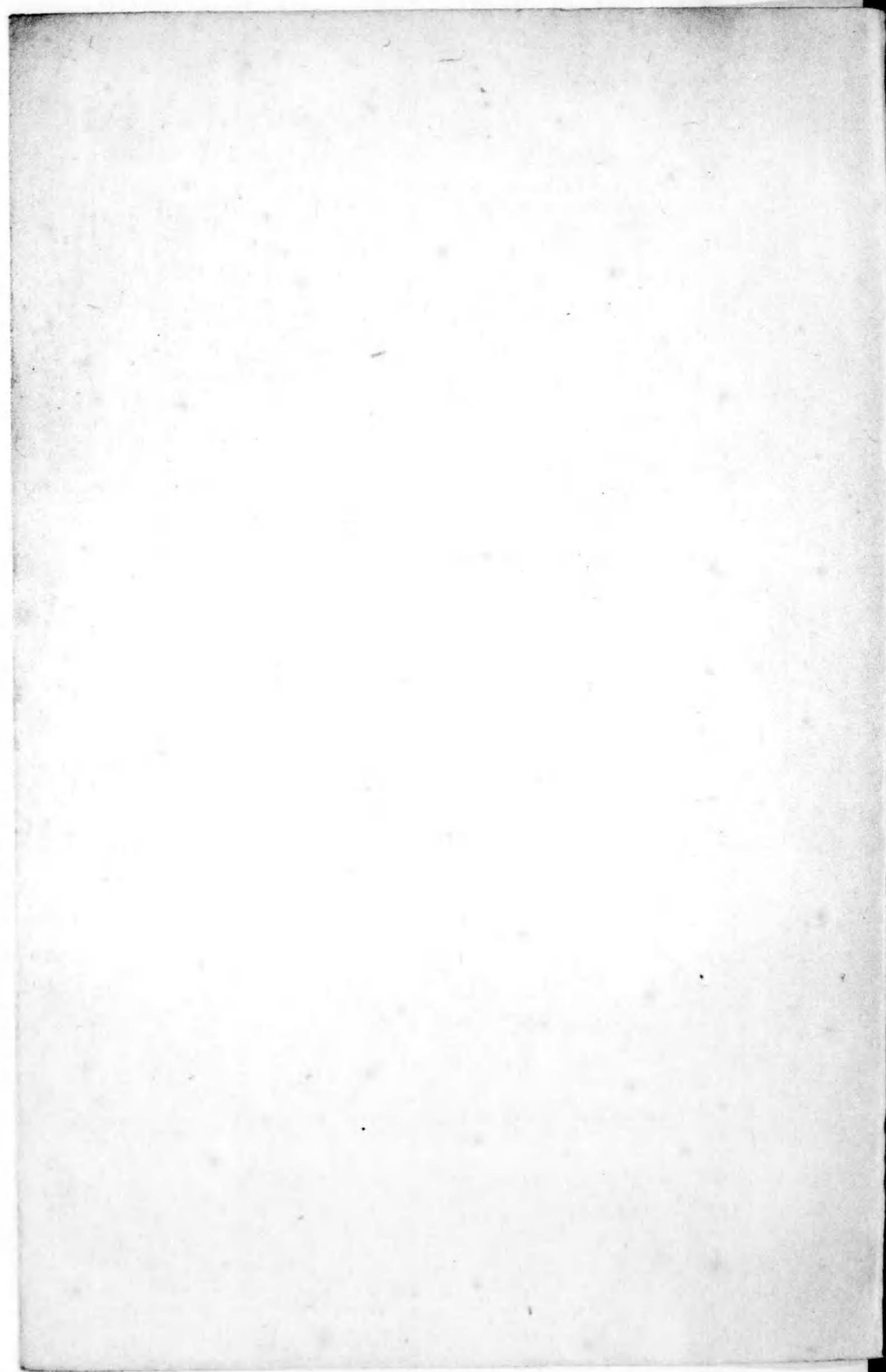
特 100  
527

270  
536



始





特100

527



米里の光



大正  
1.11.9  
内交

はしがき

余の本業は醬油醸造なり販路の擴張なさんずと金城下に細々と支店を開き日々得意廻りの途すがら株式市場へ立寄つた何が何やら判らぬゞツク／＼思へば男子よろしく活躍の意氣なかるべからず虎穴に入らば虎子を得ず何をなすも一代とトナダ空想の念制し難く初めて株式へ手を出したナカ／＼甘く儲かるこの調子で行けば四五の中には長者鑑にのる位の意氣込で一才大仕掛にやつたコロリ大失敗……知己の忠言に背き父母の配慮も不關焉轉じて期米又々失敗に失敗を重ね遂に世襲財産の大半を失ひ郷里に居たまらず大阪へ流浪の身となり彼方に雇われ是方使われ其日を送る一年有半其間糊口に窮し死を決せし事一再ならず斯る境遇になればなる程投機の味忘れんぞすれど忘れられず今一度と心あせれど資金なし已むなく小新聞社の外交となり口糊の資を得て斯道研究する事二年余にして一の光明を認め再び舊交ある名古屋へ戻り朝夕研究に従事しつ、今日に至れり茲に記するは自己の考案に成れる値敷應用掛引法の一歩を記す到底無學の編輯をござは思ひもよらぬ事なれど後進失敗者の萬分の一助にも廻らぬ筆に書きしるし識者の高教を仰ぐになん

大正元年初秋

勢鈴しるす

糸たれてザット見守れ水の面

## ◀次目明光の界米▶

|          |    |
|----------|----|
| 一期米の格言   | 一  |
| 千支日取參考資料 | 三  |
| 古來の大勢觀測法 | 一三 |
| 大正二年の期米觀 | 一六 |
| 昂進相場觀測法  | 二〇 |
| 週間掛引法    | 二二 |
| 罫線觀測法    | 二四 |
| 分岐注意日    | 二六 |
| 値數應用掛引法  | 二七 |
| 米價の變遷    | 三二 |

米界の光明

○期米の格言

- 一、時機よしと思ひ仕掛くるにも最初仕掛くる時先づ損金を見積り一回の証據金は捨つる心にて仕掛くべし故に百枚を賣建んと思へば先づ二十枚を斥候的に賣建て見込違はず五十丁位も利を乗すか乃至二三十丁にても大丈夫と思ひし時大膽に仕掛くべし。若し見込違ひの時は早く損切して暫く休戦すべし、更に相場歩調を冷静に考へ出直すべし
- 一、なるべくは斯る不生産的事業に手出せぬがよけれど一旦手を染し上は勇往敢爲にして身に襤褸を纏ひ糟糠を嘗むるも厭はざる決心なかるべからず
- 一、誰は當り屋なごゝ思慮なき提灯買賣は思ひ止るべし

- 六月末高くば賣の種を蒔き七八月は徳の利に賣れ
- 大法は六月下旬が賣りの時彼岸安値は買ひの順なり
- 風吹かぬ二百二十日の安値段阿呆になりて買の種蒔け
- 下げたがる理が手にとる様に思ふとも秋穂の上の賣は禁制
- 上り足短くなりし米なれば頼と強氣を止めて賣るべし
- 米商ひは軍陣の備へと同様なり
- 豊年の安値は長追すべがらず
- 賣買は道連なき方に於てすべし
- 天井賣らず底買はず
- 高からざる所高く、安からざる所安し

◎干支日取参考資料

- 心持よき商ひは損多し
- 豊作の凶年、凶年の豊作
- 水は低きに流れ、米は高きを集る
- 電信電話、早耳は早や倒れ
- 二兎は逐へず、兩建する勿れ
- 氣に當ると云ふ事あり

左に記すは過去の經驗上只参考に供せし迄なれば是れに依りての掛引は大に注意せらるべし但し或場合大に參酌すべき事往々あれば大勢上賣とか買とか仕掛玉の利喰日を見出すべく

明光の界米

茲に記す事となしぬ

四

- 甲子 此日は分岐日となる事あり四五日間上げ來り本日も高き時は利喰時とす安き場合は買手詰よし
- 乙丑 此日前日より安ければ賣高ければ買但し五六日も上げ續きの時は高値賣方針安値續きは買の事
- 丙寅 本日寄附より二節三節と安歩調の時は賣反對の場合には買方針なり
- 丁卯 本日變動薄く安保合の時は底値となる事あり活動の時は見送るべし
- 戊辰 本日は活動ある日なり寄附より段々高く三四十丁の上げあれば天井となる事あり意外安は底となる

明光の界米

- 己巳 本日寄附よりじり／＼下り買上りて上げ氣味止るときは九錢以上の飛び下げ急に途轉賣に廻るべし
- 庚午 此日は分岐日になる事あり活動荒く意外高は賣れ意外安は買ふべし
- 辛未 前日安く寄付安く二節少しにても高くは買前日引値より高く寄付二節三節下げ歩調なれば極力賣るべし大下落あり騰落とも大なり注意すべし
- 壬申 前日安ければ引續き安し前日高くとも安氣配と知るべし
- 癸酉 下落續きの時は前場中に底値出で五六日引續き大上げあるべし持合の時は大に買ふべし高續きの時は一

五



明光の界米

時天井となる事あり

六

○甲戌 寄付より上る氣味あれば大上げあり下げ氣味は大下りなり

○丙子 前日より下げは賣り上げは買余り活動なき日なり先づは休戦日なり

○丁丑 余り活動なし見送るべし若し大安値出すれば買方針よし

○戌寅 保合ふ事多し

○己卯 變動荒く天底の分岐となる事あり注意

○庚辰 全様なり

○辛巳 寄付より次第下げれば押目買必ず上る

明光の界米

○壬午 分岐日

○癸未 寄付より上げ氣味の時は極力買ふべし

○甲申 此日十方暮に入る日なり本日は一寸天候に注意を要す晴天なれば安く、雨降り出せば安き所を見計ひ極力買ふべし但し雨止むとも拾時間以上雨降れば二三日後より高くなるものなり

○乙酉 本日押目買

○丙戌 寄付より次第上り買、次第下り賣方針なり大に高下あるべし

○丁亥 安く持合ひ底値となる事あり

○戊子 活氣あり大上りあるべし但し本場持合ふ様なれば分

七

明光の界米

- 岐に注意すべし
- 巳丑 此日前日に随ふ
  - 庚寅 注意すべき日なり前三日間の値段を合して平均し寄付高き時は買、安き時は買ひなり
  - 辛卯 本日は天底となる事あり寄付前日より高き時は上るとも賣るべし
  - 壬辰 大變動ある日にして大下落あれば底値となる大に注意すべき日なり
  - 癸巳 大抵持合ふ事多し前日後場の平均値と本日の前場中の値段を平均したものと比較して前日より安ければ賣り高ければ買方針よろし

明光の界米

- 甲午 分岐日注意すべし上下とも五七十丁必ずあり
- 乙未 前日より安く寄付き二節上げ氣味の時は必ず三五十丁の昂進あり
- 丙申 別に特色なし時には下落の端を開く事あり
- 丁酉 本日迄上げ來りし時は天井となり、下げ來りし時は底となる轉賣買肝要なり
- 戊戌 寄付より二節三節と下げ氣味の時大下落の兆なれば賣るべし但し直に利喰すべきなり
- 己亥 没靜にして活氣なし
- 庚子 本日も持合事多し
- 辛丑 押目買の日なり

明光の界米

- 壬寅 此日前場高ければ後場安き事あるべし
- 癸卯 押目買の日なれども前々より高續きの時は目先の天井となる事あり
- 甲辰 余り變動なし、寄付前日より高ければ上るべし
- 乙巳 大に注意すべし
- 丙午 寄附高氣配にして割合に安く寄付く時は大下落あり時に逆變注意すべし
- 丁未 押目買の日なり、必ず上るべし、但し寄付高き時は余り上げなし
- 戊申 前日大引より安く寄付けば上進する事あり
- 己酉 押目買の日なり、時に目先の底となる事あり

明光の界米

- 庚戌 此日寄附より上進の氣勢あれば直ちに買建つべし此日の寄付値段、大引値段、高値、安値、四つ合して平均し翌日大引値と對照して平均値より上の時は買、下の時は賣りなり、但し二十五丁以内の高下の時に限る、大高下の時は用ふべからず
- 辛亥 安人氣押目買の日なり
- 壬子 押目買の日
- 癸丑 前日より高ければ買ひ、安ければ賣り
- 甲寅 本日相場大に注意すべし、翌日か其翌日に於て本日の高値より九錢以上高ければ買ひ、九錢以上安ければ賣り方注意すべし

- 乙卯 變化日前日記事に随ふべし
- 丙辰 全様なり
- 丁巳 寄付より下押し買、上り氣配意外高は賣り
- 戊午 天底の分岐となる事あり
- 己未 變化日なり賣買とも大注意の日なり
- 庚申 前日寄付値段より安き時は下るの兆なり
- 辛酉 本日の高値は一寸賣試むべし、翌日迄に必ず利あり  
利喰すべし
- 壬戌 寄附値段より寄氣配は買ふべし、弱含み持合ふ時は  
賣るべし
- 癸亥 持合に終る時逆相場を顯す事あるべし

- 右は只其日〳〵に於ける大体の強弱を示せし迄にて百發百  
中保し難し其邊斟酌掛引せらるべし
- 又相場の小變化を、一日に終るか、三日目にありと定め、  
四日目更に高き時は、五日目、乃至六日目、の高値見計ひ  
賣建つべし、下落は此反對なり

### ○古來の大勢觀測法

- 正月中に亥の日、三日ある年は大洪水あり
- 正月の八專中の高底値段を考へ、始終上足なる時は、其年  
大概高き年と知るべし、然し六七月頃迄とす
- 正月壬寅の日高き時は、其年中の同日は高氣配多く、又安

明光の界米

- ければ、弱含みと知るべし
- 雨水の日曇天なれば、其年柄よし
  - 二月一日春分に當る年は凶作を主るとなり
  - 二月十五日晴なれば、豊年にして、風雨あれば不作なり
  - 三月中に二月中の安値下抜かぬ時は、上げの兆なり
  - 三月非常に暴騰する年は夏米下落し、三月中安き時は夏米非常に高しと云ふ
  - 四五六の三ヶ月の丑及び寅の日に底値出づる時は、暫時安含みの氣勢なれども必ず昂進するものと心得べし
  - 五月十一日辰の日に當る時は不作の年と心得ふべし
  - 五月末非常に高きは賣り、非常に安きは買方針なり

明光の界米

- 六月一日夏至に當る年は米價高し
- 七月三日に霧ある時は、豊年なり
- 七月七日に雨降れば作柄よしとなり
- 七月甲月に當る年は必ず暴騰あり
- 夏の土用入りより六日の内に、丑の日ある年は凶作多し
- 年々二季の彼岸に酉の日あるときは、秋暴風ありと知るべし、但し春の彼岸にありて、秋の彼岸になき時は風害輕し
- 金神辰巳の方にある年は、相場の變動荒く、大活動ある年なれば、油斷出來ず
- 天一天上の日に雨降る時は、米價上ると知るべし
- 右の月割は凡て舊曆より起せし傳説なり

懐に金をたやさぬ覺悟せよ

金は米釣る餌と知るべし

方針の確定せし上は左の句を守れ

吹かれても氣は一筋の柳かな

### ◎大正年中の期米觀

○一月發月の新浦三月限は強氣配にて産聲を上げ月末より二月始め迄下勢の歩調を辿り一時目先底となり三月中頃迄上り又々不勢となり五月末乃至六月始に於て前半年の底値を出し順次好調となり七月に於て意外の暴騰を演し本年中の大天井を顯し十月始迄崩落を續け本年内の大底値を出し年

末へ懸けて戻り歩調を呈し納會するものと考ふ

△東京相場標準

△最高値二十四圓位

△最低値十七圓位

天底値巾大凡七百丁

○一月（三月限）は本（大正元年）の納會より上放れに始り上旬高きも月末安く納會す、四日、九日、十七日、廿一日、注意すべし

○二月（四月限）發會より押目買の方針よし、七日、十三日、十七日、廿七日、注意すべし

○三月（五月限）上旬中押目買、月末安し、一日、六日、十四日、十八日、廿九日、注意すべし

明光の界米

一八

○四月（六月限）月始め強勢を上進するとも賣方針よし中旬末上るも矢張賣方針よし、四日、十日、十四日、廿四日、等注意すべし

○五月（七月限）發會値より五七十丁の安値あらば極力買方針月末必ず高くして廿七八日又下落す、九日、十三日、廿四日、注意日

○六月（八月限）大勢向上の氣味あり人氣弱くとも月初の安値極力買建つべし意外の昂進あるべし、九日、十九日、廿七日

○七月（九月限）本月は降雨多かるべし所により洪水あらん故に此月に於て天井を顯すものと考ふ、四日、八日、十九日

二十四日

○八月（十月限）天災期なれば如何なる變化を來すべきや前月天井打ち下落すれば引續き賣方針可ならん、四日、十四日、廿二日、二十八日、注意

○九月（十一月限）戻り賣方針よからん、十三日、十三日、十八日、廿六日、三十日

○十月（十二月限）本月は意外安あらん此月に於て大底値を出すならん、九日、十七日、廿二日、廿七日

○十一月（二月限）上旬の安き所買方針なり、余り急上げなければ月末迄強含みにて終るならん、八日、十三日、廿一日、廿五日

明光の界米

一九

○十二月（二月限）發會下放れ安人氣なるも上昇の氣勢ある月なれば押目買よろしからん、四日、十二日、十八日、廿二日等注意すべき日なり

△右は過去の経歴より考査せしもの、順次其月々に於ける大方針、目先掛引、月々の天底値巾等例に依り調査報告すべし、別に照會せらるべし

汝の身に應じたる相場なせ

汝の損失は早く斷念せよ、利は遅く得るを要す

### ◎昂進相場観測法

○相場昂進の時何圓臺にもせよ圓臺に上り圓八錢迄にて下押

すとも八十二三錢迄は押目なり見切るに及ばず七十錢臺迄も下押せば一時手詰なし見送るべし

十錢臺に上りし米は、下の九十五錢迄は押目なり

二拾錢臺……………圓臺又は九拾二三錢迄押目

三拾錢臺……………圓七錢迄押目なり

四拾錢臺に上りし米が四十八九錢にて十八丁以上の下押せば天井なり注意すべし。二拾臺三拾臺、の米も天井する事あり注意すべし

五十錢臺に上りし米が三十四五錢迄下り再び五十錢以上へ吹き出せば大に強き米なり、買方心得べし

六十錢臺に上り三十七八錢迄下るとも押目なり、以下買叶わ



七十錢臺に上れば強し、押目買肝要なり  
八十錢臺九十錢臺は、天井となる事多し、何にても買米一時  
手詰して更に足取を眺め、賣買方針を定むべし

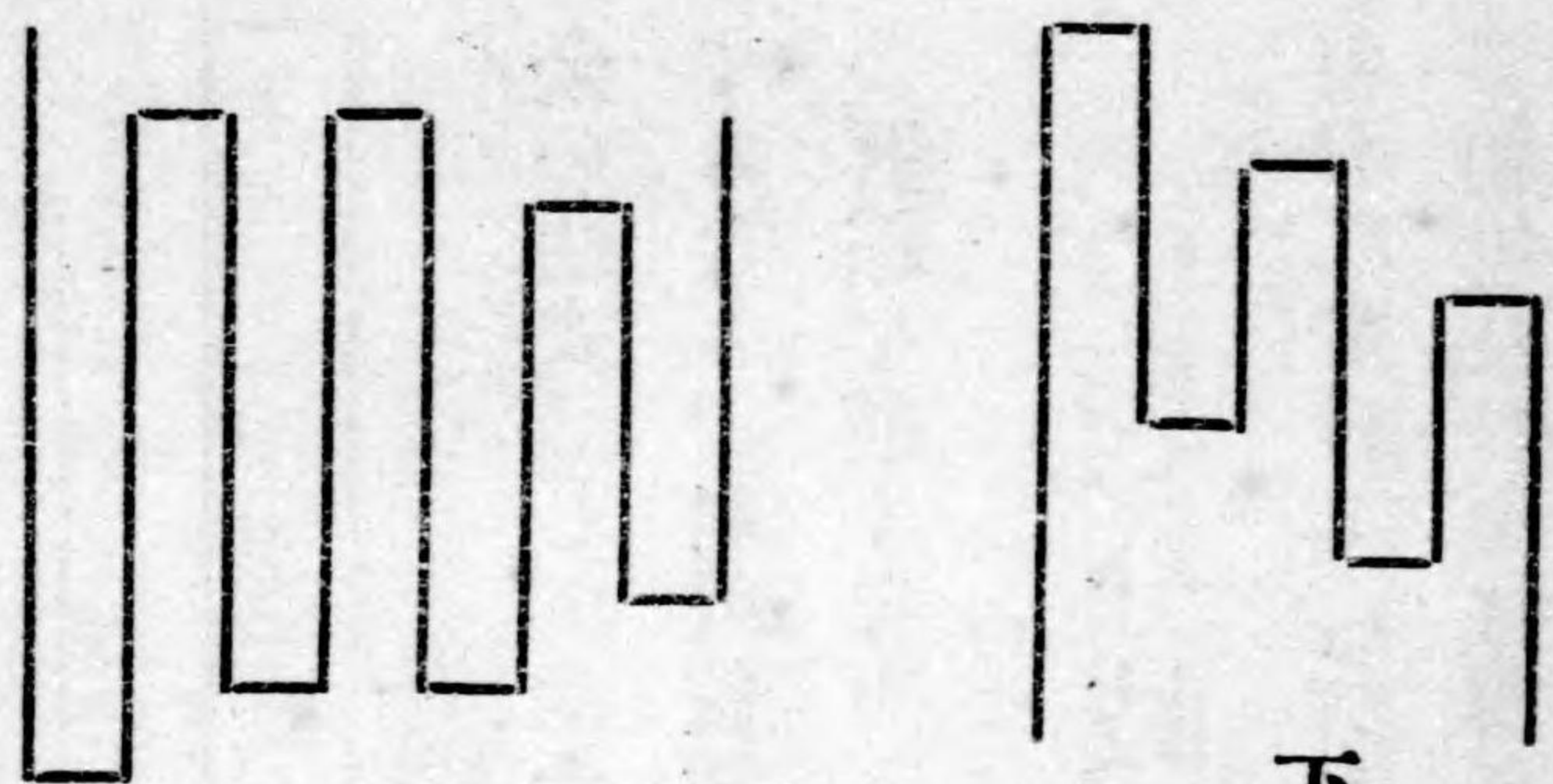
◎週間掛引法

○一毎週間に於ける月曜日の寄付値より二節三節と次第上りの  
歩調なれば其週間は高きものなり、故に火曜水曜の両日中  
に下押しあるものなれば安値見計ひ買建つべし、若し兩日引  
續き上る時は木曜の高値見計ひ賣るべし、但し次の週間へ持  
越すべからず

月曜日 相場變動多し、前週末迄下落續きの時土曜の大引  
値より上放れに寄付けは昂進の前なり  
火曜日 寄付安き時は後場高し、朝高きときは目先賣るも  
よし

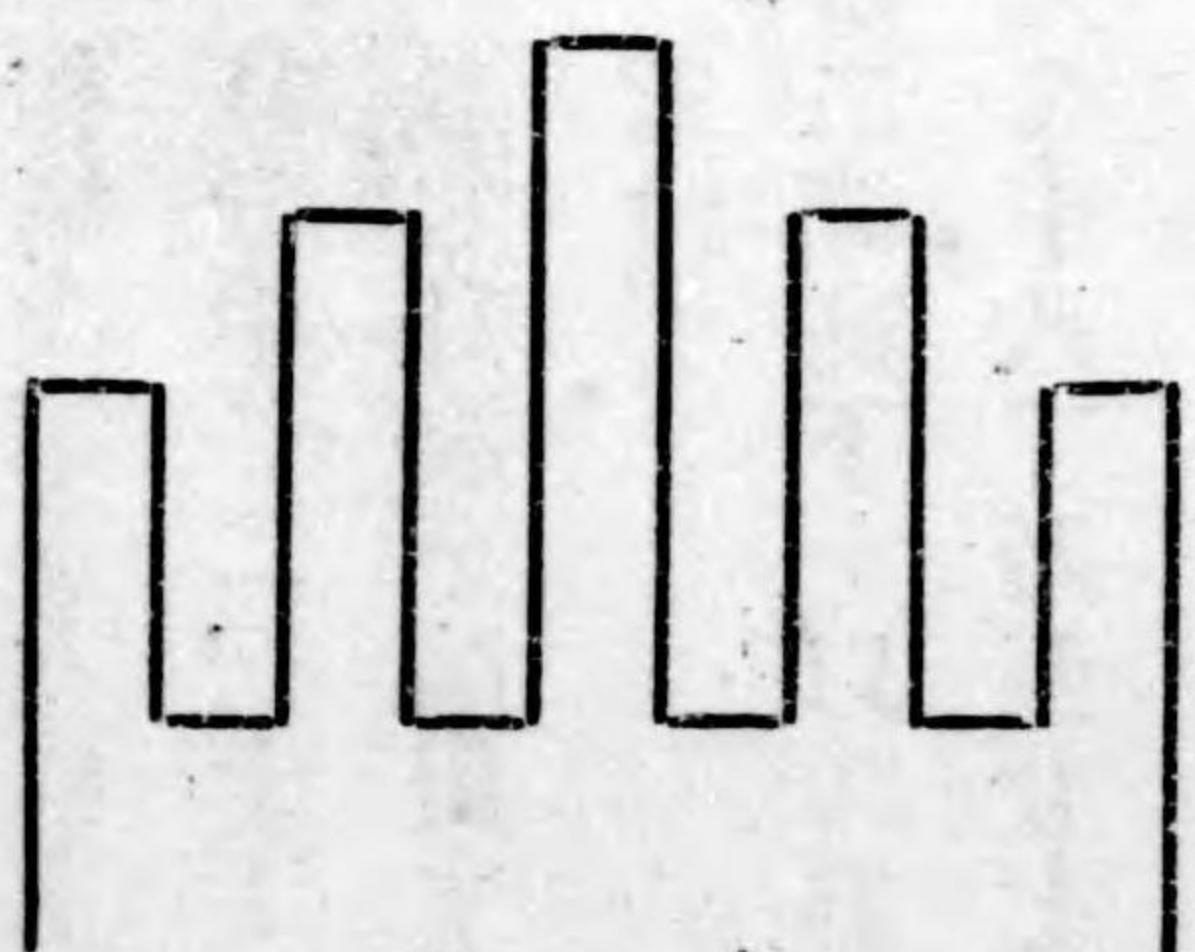
水曜日 氣配弱く意外に安き時は買ふべし  
木曜日 逆相場を演出す、高きは賣安きは買  
金曜日 大体強き方なり意外安の時は底値となな事あり  
土曜日 利あるものは手詰して休日越の足に付くべし

明光の界米



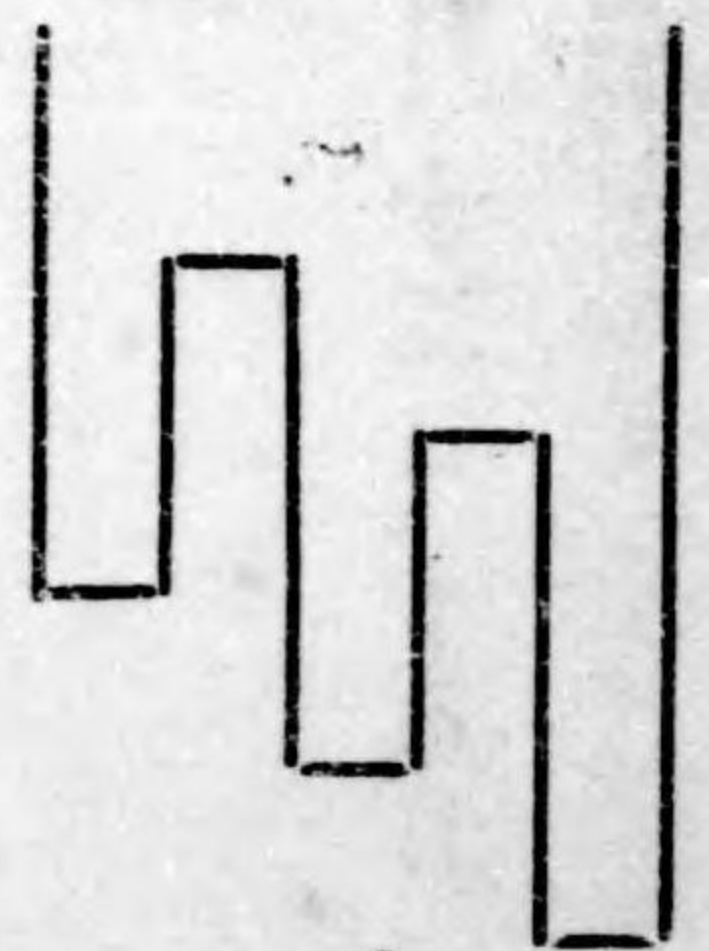
暴騰ノ  
足取

下ゲノ  
前提



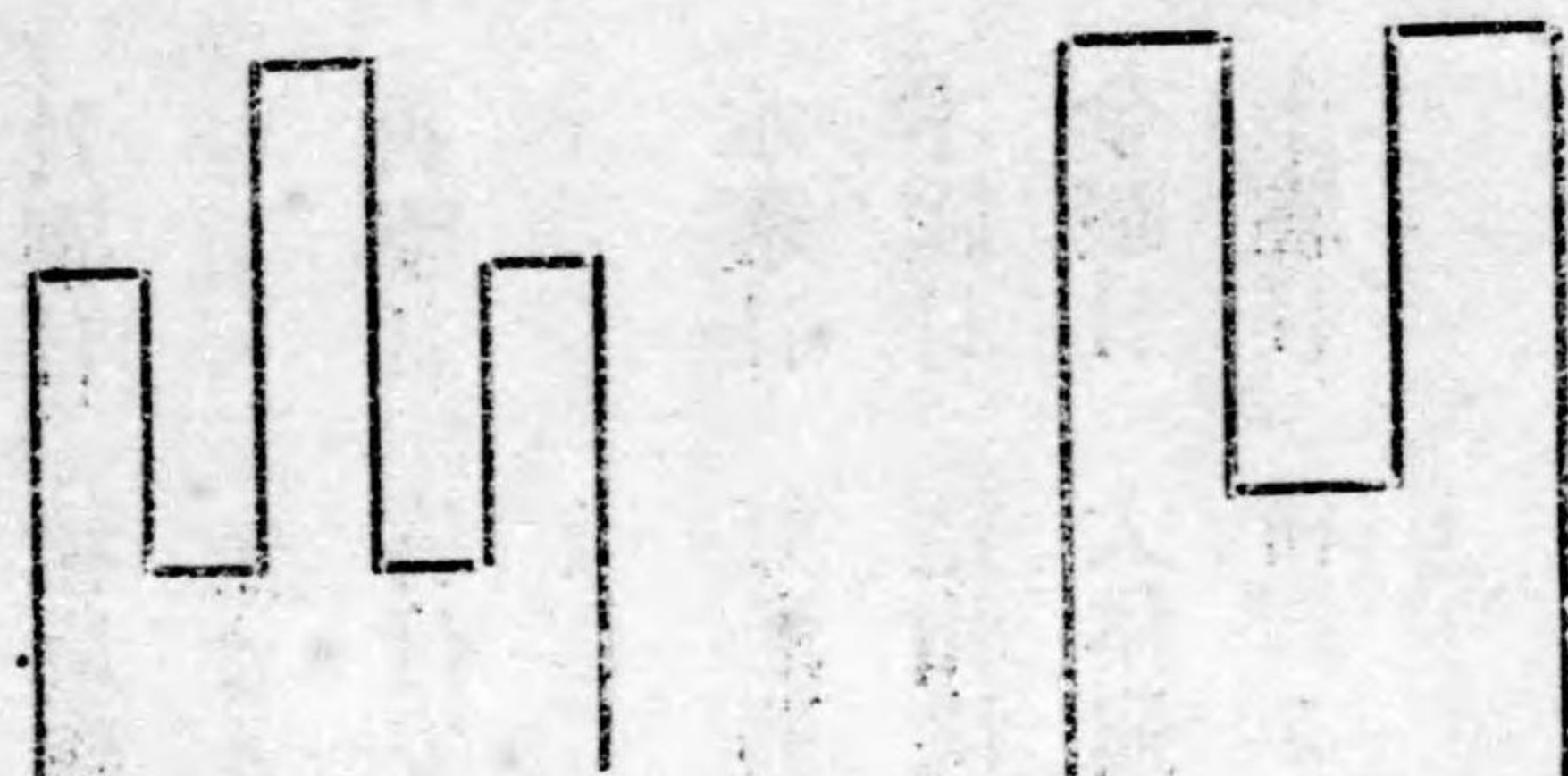
二五

下落ス  
ルノ前  
提ナリ



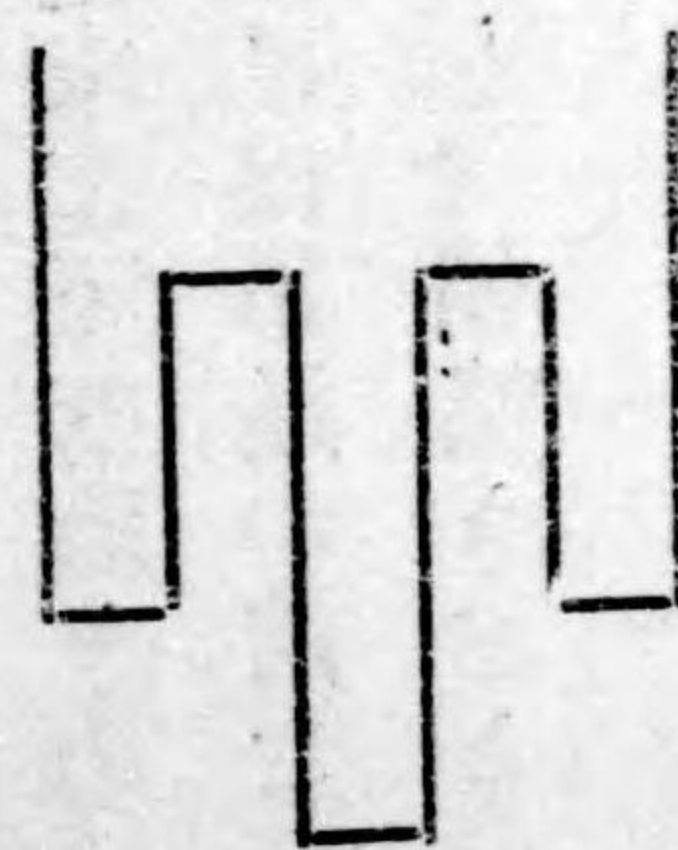
上ゲノ  
前提

明光の界米

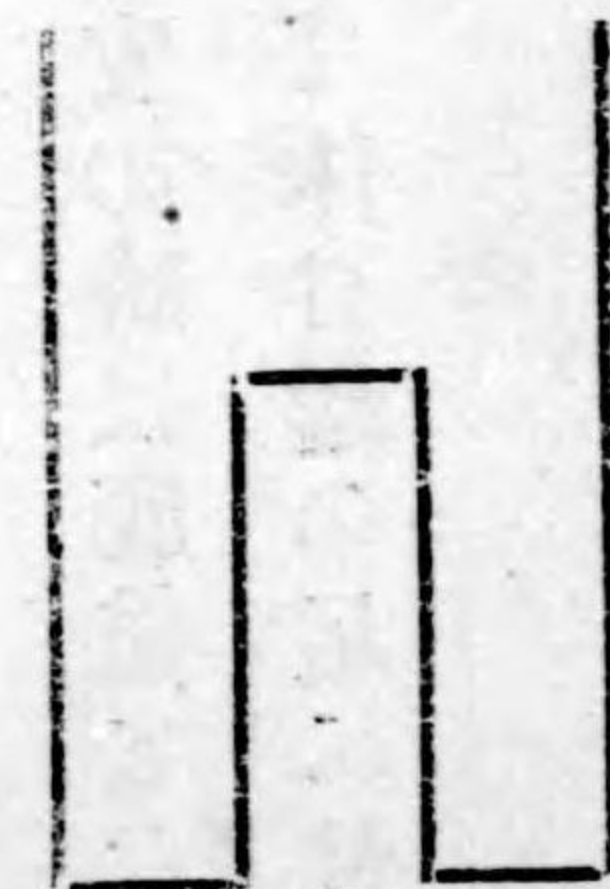


下落ノ前提

下ゲノ足取



上進ノ前提



上ゲノ足取

◎罫線観測法

二四

明光の界米



相場次第々に上り來り一日の中に二三十丁の高下をなし乱調を演出すれば天井なり

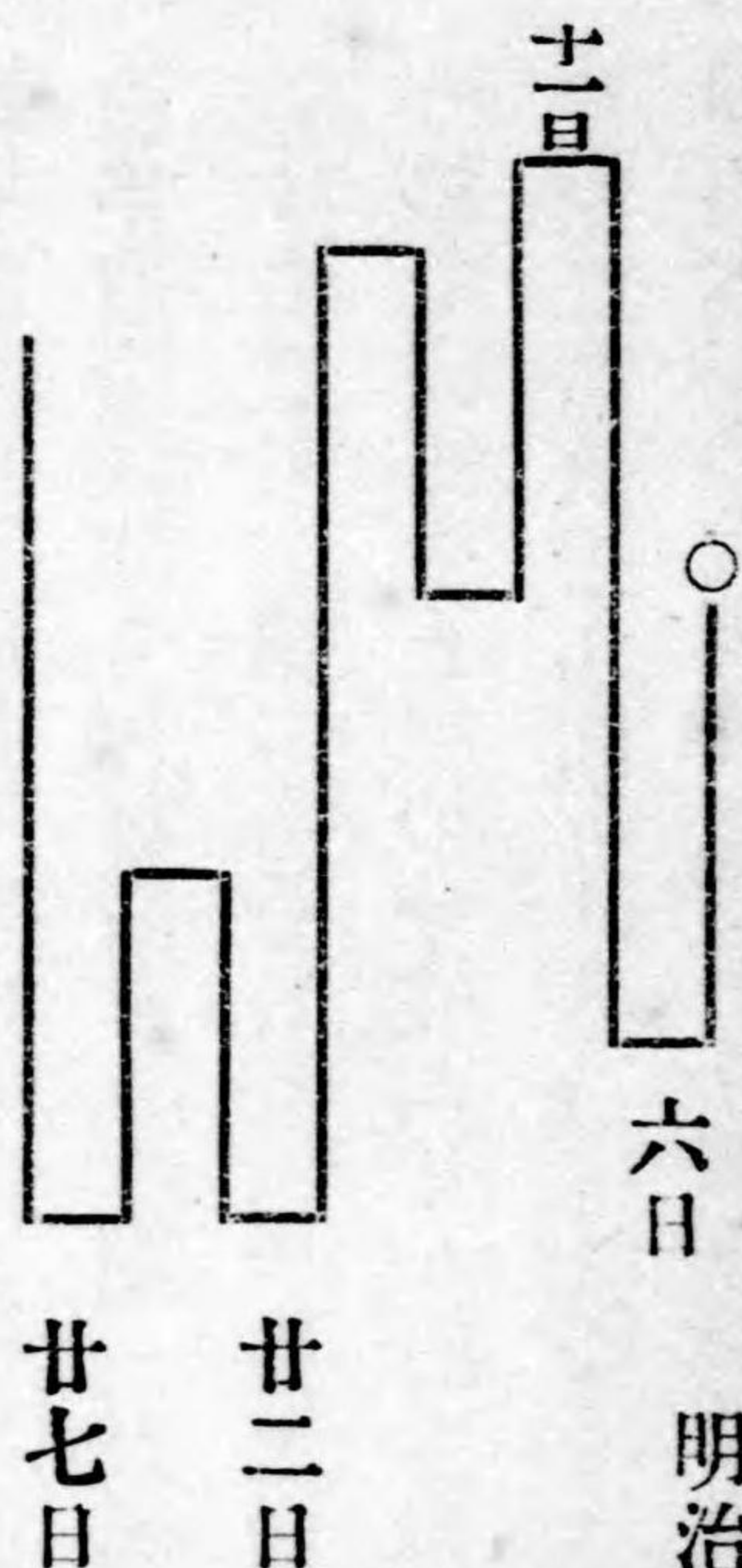
二六

○余の法式としては六錢高下、拾二錢高下を以て野線を描畫するなり、別項値數測定法は凡て十八丁乃至廿七丁高下に於て野線を描くなり

◎分岐注意日

○毎月に於ける、三日、六日、九日、十二日、十八日、廿七日を以て相場岐れを注意の事左に實例を示す

明光の界米



明治四十五年一月の足取  
(名古屋相場足)

◎値數應用掛引法

○毎年十一月發會すべき一月限の發會値を基礎として翌年へ掛けての大勢を觀測するなり、發會値より一直線に(十八錢高下の足取)三十六丁以上昂進すれば翌年上半年期間は押目買

二七

明光の界米

の一点、反對に發會値より三十六丁以上下落すれば戻り賣方針を執るべし、左に本年中の實例を示せば

(東京相場の標準)

拾五圓二拾錢(一月限發會値起点)より下る拾四圓九十八錢(二十二丁下り)は下げの前提とはならず其後上進して拾五圓七拾九錢迄一直線に昂進せり是れ昂進の前提なれば前半期間は即ち押目買なり、第一高値十七圓四十錢搦と測定するなり、第二の分岐点は、拾七圓四拾五錢五十四錢なり拾七圓四拾五錢の分岐点より三十六丁以上の上抜きせしは第二高値拾九圓七八拾錢と測定するなり(第四分岐点)中略本年の大天井は第七分岐点の二拾三圓三拾錢より三十

明光の界米

五丁上り二十三圓六拾五錢を以て大天井となれり(三十六丁上抜かずして下落せり)以來崩落に崩落を續け(此間の崩落値數も左表に對照せらるべし)大底値は第一分岐点の拾六圓三十七錢を以て本年中の底値となれり以下略す

分岐値數と騰落前提値數

起点より百〇八丁を以て第一分岐点を定め順次第二第三と測定するなり

上ゲノ前提値 分岐点 下ゲノ前提値

第一 拾六圓六十四錢 十六圓二十八錢 拾六圓壹錢

第二 拾七圓八拾一錢 十七圓四十五錢 拾七圓八拾八錢

十七圓五十四錢

明光の界米

第三 拾八圓九拾八錢 (十八圓六十二錢) 拾八圓三拾五錢  
 第四 貳拾圓〇五錢 (十九圓七十九錢) 拾九圓五拾貳錢  
 第五 貳拾壹圓參拾貳錢 (二十圓九十六錢) 貳拾圓六拾九錢  
 第六 貳拾貳圓四拾九錢 (二十二圓十三錢) 貳拾壹圓八拾六錢  
 第七 貳拾參圓六拾六錢 (二十三圓三十錢) 貳拾參圓〇參錢

○發會値の起点より(一月限生れ値)三十六丁以上の昂進あらば第二分岐迄(第一は通過)第二を上抜けば第四分岐点迄上る(第三通過)毎分岐値の前後騰落値數に深く注意して掛引すべし

明光の界米

○目先掛引としては毎月發會値より九錢以上上れば買、九錢以上下れば賣の事、發會より四五日間に一日中の高下十八丁以内の時は其月天底値巾七十丁内外と見て掛引すべし、九丁以上二十七丁位の高下あれば百二三十丁相場と見て掛引すべし、廿七丁以上の高下あれば百五十丁以上と見て掛引すべし前頁に記せし分岐注意日深く注意せらるべし、昂進に昂進を續くとも分岐日意外高き時は躊躇なく賣るべし、下落は反對に人氣弱くとも買方に廻るべし

大正二年中に應用すべき分岐値數記入野線紙入用なれば御照會ありたし

●米價の變遷

一石の相場

現今の通貨換算

二匁

金四錢六厘

一匁五分

金三錢四厘餘

一匁七分

金四錢餘

六匁三分

拾四錢九厘餘

九匁四分

○此年慶長大判小判一分鑄造

二十匁

四十六錢五厘餘

同十一年

廿二匁七分

五十三錢五厘餘

明光の界米

慶長六年

文正

寬元四年

嘉祿元年

建仁三年

壽永五年

年次

明光の界米

同十七年

元和二年

寬永元年

同五年

同十年

同十五年

同二十年

正保元年

十五匁一分六厘

三十五錢二厘五毛餘

十九匁四分

四十五錢一厘五毛餘

二十七匁六分

六十四錢一厘八毛餘

二十三匁より

五十三錢四厘八毛

二十五匁

五十八錢一厘三毛

二十八匁より

六十六錢七厘四毛

三十匁

六十九錢七厘六毛

五十匁より

一圓十六錢二厘餘

六十匁

一圓三十九錢五厘

三十匁より

六十九錢八厘三毛

四十匁

一圓〇四錢六厘五毛

明光の界米

|      |                |                       |
|------|----------------|-----------------------|
| 慶安元年 | 二十石より<br>三十石   | 六十錢四厘六毛餘<br>六十九錢八厘三毛  |
| 承應元年 | 三十石前後          | 七十六錢七厘四毛              |
| 明暦元年 | 三十八石より<br>四十石  | 八十八錢三厘七毛<br>九十三錢〇二毛餘  |
| 萬治元年 | 四十八石より<br>五十二石 | 一圓十一錢六厘餘<br>一圓二十三錢二厘  |
| 寛文元年 | 五十二石           | 一圓二十錢九厘餘              |
| 同 五年 | 五十石より<br>五十一石  | 一圓十一錢六厘餘<br>一圓二十錢九厘餘  |
| 同 十年 | 五十六石より<br>五十八石 | 一圓二十錢二厘より<br>一圓二十七錢四厘 |
| 延寶元年 | 五十五石           | 一圓三十錢二厘               |

明光の界米

|       |                  |                           |
|-------|------------------|---------------------------|
| 同 五年  | 三十七石より<br>四十七石   | 八十六錢より<br>一圓〇九錢六厘         |
| 天和元年  | 七十五石より<br>七十八石   | 一圓七十四錢四厘<br>一圓八十三錢二厘      |
| 貞享元年  | 四十石              | 九十三錢〇二毛                   |
| 元祿四年  | 四十一石より<br>五十三石三分 | 九十五錢三厘四毛<br>一圓二十三錢九厘      |
| 同 拾年  | 八十五石より<br>九十石    | 一圓九十七錢六厘<br>二圓〇九錢三厘       |
| 同 拾五年 | 百石より<br>百十石      | 一圓六十六錢六厘餘より<br>一圓八十三錢三厘三毛 |
| 寶永元年  | 四十五石より<br>五十石    | 七十五錢より<br>八十三錢三厘三毛        |

明光の界米

|      |        |          |
|------|--------|----------|
| 正徳元年 | 五十八匁   | 九十六錢六厘六毛 |
| 享保二年 | 九十匁    | 二圓〇九錢三厘  |
| 同十一年 | 五十一匁五分 | 一圓拾九錢七厘  |
| 元文元年 | 四十五匁六分 | 一圓〇六錢    |
| 寛延元年 | 七十七匁八分 | 一圓八拾錢九厘  |
| 寶曆五年 | 五十二匁四分 | 一圓二拾一錢八厘 |
| 同十二年 | 四十五匁五分 | 一圓〇五錢八厘  |
| 明和五年 | 五拾八匁六分 | 一圓三拾六錢二厘 |
| 天明三年 | 七十六匁二分 | 一圓七拾七錢二毛 |
| 寛政元年 | 七十九匁八分 | 一圓八拾五錢五厘 |
|      | 七十六匁三分 | 一圓七拾七錢四厘 |
|      | 六十二匁二分 | 一圓四十四錢六厘 |

明光の界米

|      |          |          |
|------|----------|----------|
| 文化元年 | 五十匁      | 一圓十六錢二厘  |
| 文政元年 | 六十一匁     | 一圓四十一錢八厘 |
| 天保二年 | 九十一匁     | 二圓十一錢六厘  |
|      | 七十三匁六分   | 一圓七十一錢五厘 |
| 嘉永二年 | 八十一匁三分   | 一圓八十六錢七厘 |
|      | 百二匁八分    | 二圓三十八錢八厘 |
| 安政元年 | 二圓六十三錢より | 一圓九十二錢   |
| 萬延元年 | 二圓八十三錢より | 四圓〇九錢三厘  |
| 文久元年 | 二圓九十七錢より | 四圓八十三錢   |
| 元治元年 | 三圓五十三錢より | 六圓六十錢    |
| 慶應元年 | 六圓二十九錢より | 十一圓九十錢   |
| 同二年  | 四圓七十一錢より | 十四圓十錢    |



米界の光明

同三年  
以下略す

五圓九十錢より十四圓七十五錢

三八

米界の光明終

米界の光明

大正元年十一月五日印刷  
同年同月八日發行

編輯兼發行人 北川精一郎

三重縣鈴鹿郡石藥師村  
大字上野二十五番地

印刷人 小山庄三郎

愛知縣名古屋市中區  
水主町二丁目廿一番地

印刷所 專進社

全縣全市全町全番地

三九

270  
536

大正  
十一年  
八月  
二十日  
...

終

